



山形県立保健医療大学

看護実践研究センター

看護実践水準の向上・大学教育との連動



公立大学法人 山形県立保健医療大学



山形県立保健医療大学
公式マスコットキャラクター
ワイワイ

看護実践研究センターとは

看護実践研究センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県の看護実践水準の向上を図ります。「山形発・地元ナース養成プログラム」の実施・運営の中心を担う役割を契機として、平成26年12月1日に開所しました。

令和元(2019)年度からはセンター事業を再編成し、対象を山形県内の看護職全体に広げ、地元ナース事業とともに展開しています。



看護実践研究センター

01
地元ナース
事業

02
教育力向上
事業

03
地域連携・
地域貢献
事業

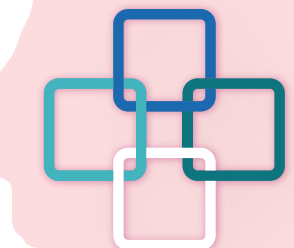
山形県内の看護職の看護実践水準の向上

連動

看護
学科

支援

連携

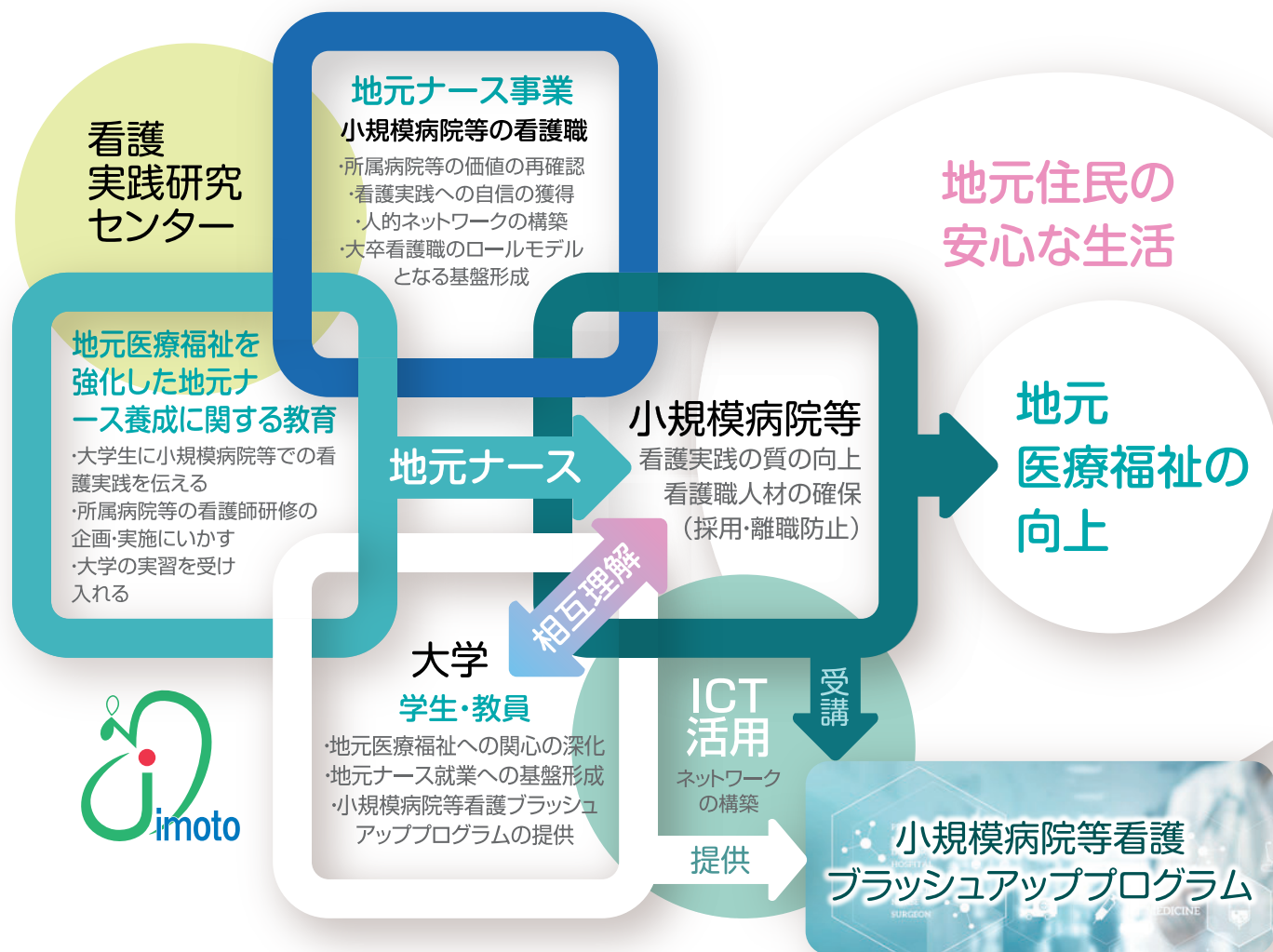


県・市町村
保健医療福祉機関
県看護協会など



「地元ナース」とは

超高齢化と人口減少が進展し、かつ医療資源や公共交通機関が少ない地域において、住民は「地元」の小規模病院（病床数が原則として200床未満の病院）・診療所・高齢者施設（以下、小規模病院等）の医療福祉を頼りとしています。「地元ナース」とは、そのような小規模病院等を利用している地元住民の多様な健康問題に幅広く対応するなど、地域の強み・弱みを包括的にとらえ、多職種と連携し住民力を活かした看護を実践する、これまでの臨床看護の範疇にとどまらないジェネラリズムな専門家としての看護職です。



大学教育との連動

開学以来積み重ねてきたチーム医療教育の実績を活かし、新しい発想で地元ナース養成の教育開発に取り組み、地元で就業する価値を理解した学生の育成を目指しています。



地元ナース養成科目

「地元(やまがた)探求Ⅰ・Ⅱ」

“地元(やまがた)”の概要を理解し、学生個々人の“地元”に対する理解と愛着を深める。

「相互理解連携論」

個人、集団、地域等の「連携」の基礎や実際について、保健医療福祉以外も含めて広く学習する。「多職種連携協働(チーム医療)」に適應できる能力、技術、考え方について教授する。

「ジェネラリズム看護論」

地元ナースの活動の基盤形成に繋がるように、人々の多様な健康問題、看護へのニーズの現状を概観し、地方の小規模病院等の場において求められる看護について探求する。

○リカレント教育 (学び直し) 山形県内全ての小規模病院等対象

小規模病院等に勤務する看護職を対象とした教育支援を行います。実践能力の向上を図るリカレント教育の内容・方法を開発するとともに、リカレント教育修了者が地元ナースのロールモデル(地元ナースRM)としての役割を担い、小規模病院等で臨地実習を展開できるための基盤を形成します。

看護職の方々が地域の医療福祉の担い手としての役割を再認識し、発展的に看護を実践する能力の向上を図ることを目的とした「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」とブラッシュアッププログラム修了者を対象に、スタッフ教育を実施できる企画力・調整力・指導力を培う「フォローアップ研修」とを実施します。

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

学校教育法第105条に基づく履修証明プログラムであり、60時間以上のプログラムです。必要な科目や単元のみを受講も受け付けます。また、ブラッシュアッププログラムでは、小規模病院等の看護職の方が受講しやすいようにICTを活用した教育を展開します。

平成27年度～令和3年度で、履修証明発行者48名、単元受講者189名が受講しました。

※文部科学大臣が認定する「文部科学省令和元年度職業実践力育成プログラム」にも認定されています。

ブラッシュアッププログラム科目構成

- 看護の動向と課題 (1単元)
- 地域密着連携 (4単元)
- 根拠に基づく看護 (5単元)
- 看護研究の基礎 (6単元)

令和元年度より

Jナースカフェ

リカレント教育や相互交流に参加した方を中心に、小規模病院等の看護職の交流の場、リカレント教育の場として、概ね年2回(不定期)本学を会場として開催しています。

看護up to date

研修機会の少ない診療所の看護職を対象に、半日程度のプログラムで、急変時の看護や生活習慣病等に関する最新知識を学びます。

○相互交流 (協力病院対象)

「地元ナース事業」の推進のためには、小規模病院等と大学の相互理解が欠かせません。相互交流事業では小規模病院等の看護職の実践指導力の向上と大学教員の教育力の向上を図ることを目的に、協力施設と大学間で小規模病院等の看護職と大学教員との相互交流を行います。



○ICT活用

ICT(Information and Communication Technology)とは、情報通信技術の総称です。

リカレント教育では、大学から遠隔地にある病院等の看護職の方々が受講しやすいように、ICTを活用した教育を展開します。

大学から遠隔地にある小規模病院であってもICTを活用することで、効率的に講義を受けることができます。

02 教育力向上事業



申し込み方法はホームページをご覧ください。
URL:<https://www.yachts.ac.jp/center>

○看護研究相談・支援

看護職の研究能力が向上し、看護実践への波及効果を目指し、県内の小規模病院等に勤務する看護職の方を対象に相談・支援を行います。

看護研究方法の研修や研究の
実践・発表に向けた支援

大学職員と小規模病院等の
看護職の共同研究
(課題対応研究等)の企画・
実践や発表等に向けた支援

小規模病院等の
看護職の看護実践力向上
に向けた研究や研修会・
講演等の相談や支援

○シミュレーション教育

シミュレーター等を活用した看護技術や対応を学びます。

○看護専門学校教員との協働

看護教育の方法を検討します。



03 地域連携・地域貢献事業



○山形県からの看護に関する様々な事業の受託

母子保健コーディネーター研修

助産師・保健師等が専門的な研修を受け、妊娠・出産・育児のさまざまな疑問・悩み・相談に包括的に対応する母子保健コーディネーターを養成しています。平成28年度～令和3年度で、延べ602名が研修を受けました。

高校1年生セミナー

山形県内の高校1年生に看護の魅力を伝え、将来の看護職についてもらうことを目指しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、令和3年度は高校1・2年生を対象に開催しました。平成25年度～令和3年度で、計790名が参加しました。

看護教員養成講習会

令和3年度現在、令和2年度、14名が修了しました。12名が看護専門学校の教員、1名が職能団体の教育研修に携わり、1名は病院の臨床指導者として活躍しています。



○山形県立中央病院との連携

看護学科3年生あるいは4年生対象の山形県立中央病院体験セミナーの実施や、病院看護師と大学教員の共同研究などを推進しています。

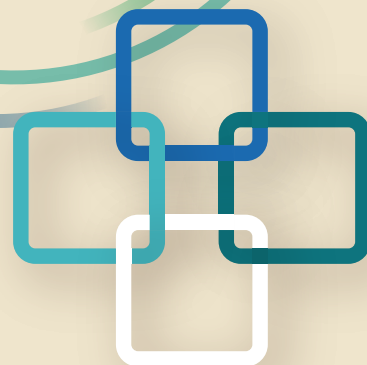
○山形県との協働による看護職のスキルアップ

看護職の専門性や実践能力に関する国や関係団体の動向を注視し、山形県と協働しながら時代の要請に応じた検討を行います。平成30年度～令和元年度は、保健師助産師看護師法で規定されている特定行為研修について調査しました。

○卒業生支援

大学を卒業生のHOMEと位置づけて卒業生を大学に招き交流を図る「ホームカミングデー」を毎年1回行っています。





山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地 TEL/FAX : 023-686-6614

E-mail : ns-cent@yachts.ac.jp <https://www.yachts.ac.jp>

E-mail : ken-cent@yachts.ac.jp (看護研究相談・支援専用)

山形県立保健医療大学

大学詳細
WEBにて
コチラ

